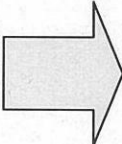


問題点と課題

- 1) 必要な温度におけるデータをその都度測定が必要。
- 2) 歪ゲージ式荷重計を使用するため、Max. 200°C程度が限界。
- 3) 外的要因（ローテーション、ボルト、フランジの熱膨張、配管応力など）の考慮。
- 4) 本評価法は、ガスケットの応力緩和やクリープを考慮したもので、ガスケットが理想的に使用された場合を想定
- 5) 材料劣化（特にジョイントシート）の考慮。

- 
- 1) あらゆる温度条件下の寿命を推定必要
 - 2) 外的要因を考慮（フランジ締結体として考慮必要）
 - 3) 実際のフランジ締結体における寿命との整合性



実証試験が必要でないレベルの寿命推定となるか？